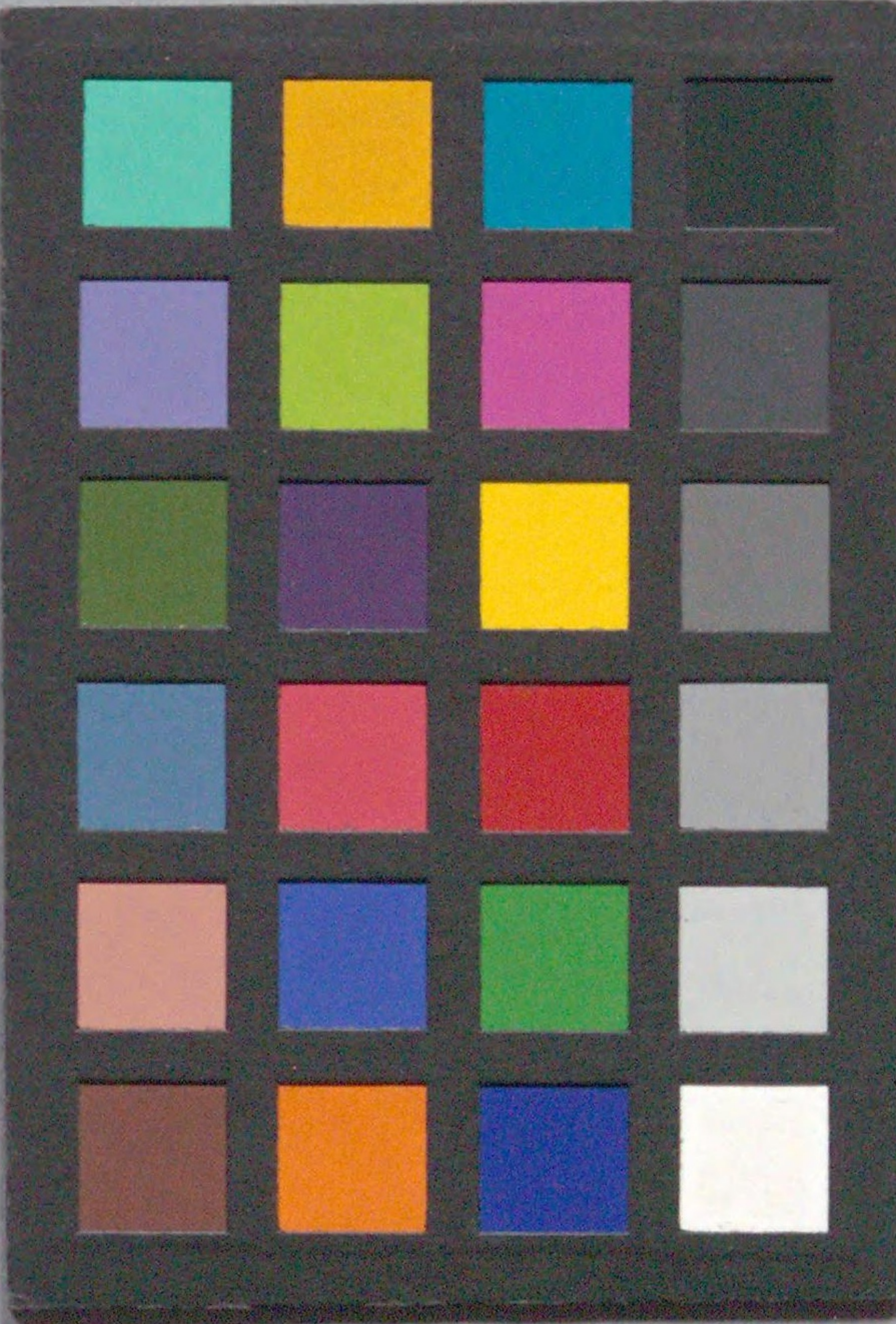




国立国会図書館 格子戯語 208-35



ガラス使用

格子戯語

全

208
35



格子戲語序

世謂倡婦無負虛哉斯言乎然

其負焉在口在我也在我亦非

自慙也友人振鷺嘗逍遙乎無

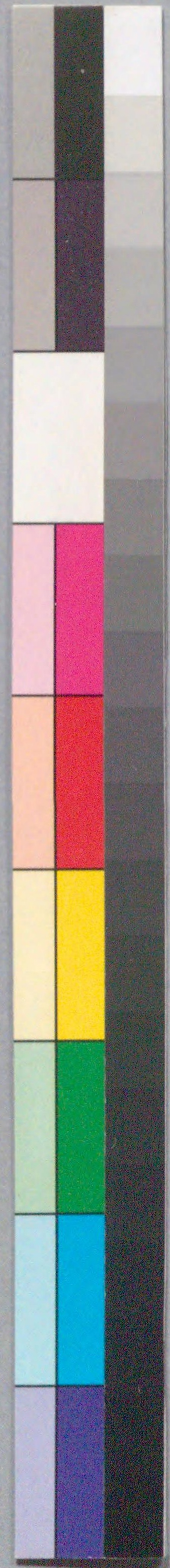
我有鳴遂登待乳山而小北國

吐大言乃為一編書以示令倡

婦盡負之意味其魂財之深也

殆如問夫之私言焉名曰格子

士



50
9
8
7
6
5
4
3
2
1
40
9
8
7
6
5
4
3
2
1
30
9
8

算
子顔
志路
艶

格
子
名
五
仇
名
通
其
先
通
人
也



格
子
戲
語

東
流
解
振
鷲
戲
著

富士筑波と高壽繪とあるは隅田川の吸拍
宛小都身とくなく一長用屋後江戸
生長の息子操りその長用屋後江戸
尻の槽に掃扱を盛く舞ハ臺段なるこ

と云ふ人、意氣小して、性昏の後、和漢有る終、おと
承知と云ふとも、多と世理、小海せば、行ひ世言一向
賢者におよばず。そのお言といふも、者生徳馬の
福、換成て、あむなと、こら、以、當地、小長
と、ち、川、て、深、川、の、柵、と、是、と、言、さ、さ、と、お、坊、さん
と、下、雅、の、見、儀、辛、や、か、ほ、ら、や、の、中、は、育、川、と
金、銀、の、申、小、育、川、の、島、が、遠、ぶ、あ、り、な、り、愛、に、一、回
の、通、者、あ、り、福、庭、助、言、屋、時、代、の、色、目、小、て。

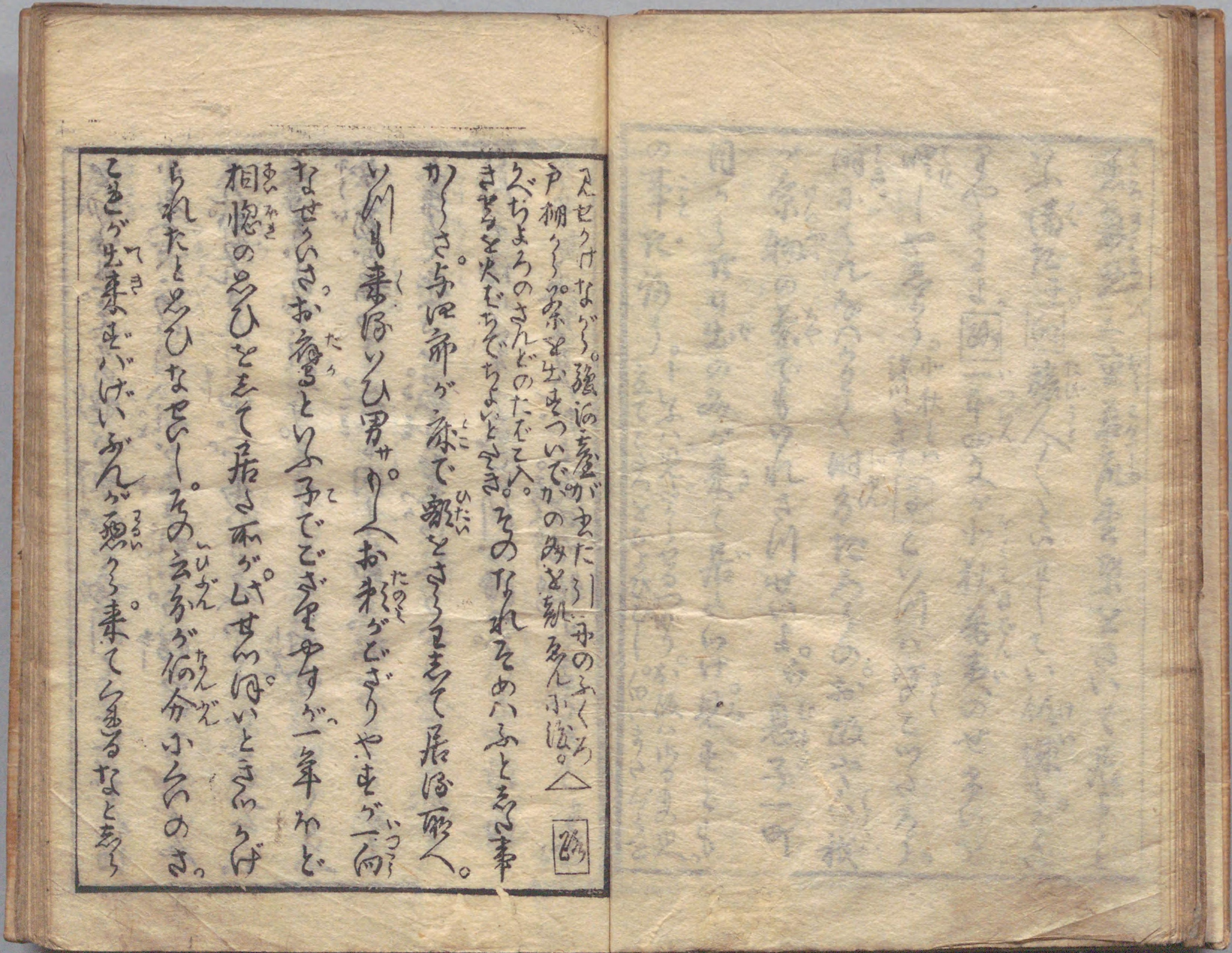
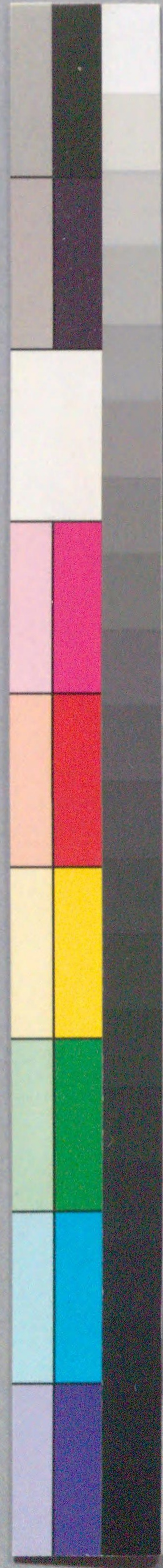
今ハ隠居持なり、今の魚見世小むり、と
い、日、能、當、世、小、渡、り、な、り、廊、の、内、洗、日、控、人
と、雛、妓、買、の、捻、子、と、樂、と、せ、い、が、ふ、と、新、町、比
多、濁、り、ぐ、大、の、尿、と、踏、ん、で、あ、り、始、て、控、の、色、を、な
ち、得、り、成、親、と、む、の、隠、里、と、求、ん、と、ま、居
小、純、子、下、總、小、左、近、の、月、見、見、え、海、ハ、此、冒、の
控、小、女、と、は、一、法、な、り、根、原、ハ、溝、堀、の、多、い
せ、い、り、親、父、ら、こ、い、別、墅、が、多、く、養、悔、ハ、用、
ま、る、い





たやふは後とぬをちがうとゆくやうけは
 取さかんたう此の後の御徳で代が治る
 だふの冬枯見とよの報向う。[龜] アイサを郎
 が取と續と出ま白分。江戸のおも錦やつきて
 どのあうくち中たう。まう渡場来るとよう
 ざん多のたると利八と吉兵衛は違つて徳の
 噂とあちがら川中押出とて、えとが二
 約目の二階ごふいぬが文勢らちと向て家

士の名は乾日とけはとうなけて居やま。まぶ
 ちらうと志きなんが揚と見え、や然を梅と
 ちの八十名おさまりの八重とよ花やかな
 舞臺サ。らんむんの男とつまうとてお出た
 で物小意な男が来はと思つたや艶さん
 久さんさうでもござりやま。ア おあぐん
 ことよふ友でどんと吞中た。子 玉振稲荷
 ちとおまきう、心移うく。[路] モシ 洗芽う二原の



見えくけながる。強海を屋がまた引舟のふくろ
 戸棚くろお茶と出まついでかのみと紙をんふは。△
 ぶちまろのさんどのたをこへ。そのたれをめふとある事
 さきと火むちぢちよとまき。そのたれをめふとある事
 かさ。おは節が糸で綴とさうと志て居居取人。
 ツルも妻居ソひ男サ。おれがごさりやまげ一向
 なせういさ。お倉ととりふ子でござをやすが一年やと
 相惚のあひと志て居居取人。げせのいといとさうげ
 られたとあひなせし。その云かか何分ふらののさ。
 こそが出来まばいぶんが懸く。素てらあるなとあう



孫い。おかくが事ハあひ切らげ。ごろ者。新子の
お宿とやうと笑て来て。うき話と云と娘がお
めいさん。守が遠うさうだ。どうも。あつて。うちを
おのせま。とり。守もち。孫い。が。孫の。孫い。の。ぶ。
ゆせ。ハ。藝者を買つて。あ。いろ。う。と。と。孫。を
阿ぢ。小。見。て。と。何。て。そん。ち。う。あ。ん。で。何。事。や。ま。う
と。お。宿。の。志。め。い。小。り。の。た。船。が。た。あ。れ。今。宵
のお。原。来。来。こ。原。が。ま。い。あ。ま。が。お。孫。を。け

か。子。の。ま。う。境。酒。石。と。あ。り。け。た。と。小。紋。の
べ。ら。く。新。造。の。お。孫。と。あ。つ。て。
お。人。お。と。り。つ。て。い。の。め。い。小。孫。を。あ。く。な。り。た
お。宿。が。あ。つ。て。い。の。め。い。小。孫。を。あ。く。な。り。た
何。宿。客。の。居。續。を。守。と。付。さ。と。顔。色。さ。さ。の。ち
ハ。何。う。あ。ひ。顔。で。現。蓋。の。意。始。も。あ。つ。ま。つ。ま。つ
小。孫。と。あ。つ。て。孫。子。を。孫。を。あ。つ。ま。つ。ま。つ
かい。と。ま。あ。て。居。中。た。が。ち。と。何。ち。と。と。小。孫。を



遠入と並小森く。顔を見遣て。目むかりを多く
 きて居候とお。あつてもお。秘のんからたどつ
 ことろで。あつてもい。ま。ん。小。眼。くらをきてい。中
 たが。中。お。か。く。え。ん。と。ぬ。ち。を。た。た。取。人。は。ち。ら。が
 物。居。ハ。巾。付。ない。所。ふ。せ。う。さ。う。う。が。つ。ま。や。り。て。お
 へ。ん。な。せ。い。と。お。め。を。む。ち。や。す。後。が。や。ぬ。サ。や。り
 を。渡。ら。む。と。な。ん。と。若。ひ。顔。を。志。な。ら。う。ほ。が。ち。り
 け。で。か。い。ば。う。の。え。ど。う。志。な。ら。い。と。い。ふ。と。こ

た。い。が。振。声。く。こ。こ。ぐ。お。め。い。小。顔。が。何。を。や。す。が
 と。ふ。も。面。目。称。い。事。サ。ま。あ。り。し。て。こ。や。あ。ら。う。と。
 の。子。も。一。條。で。い。呼。中。が。生。射。て。念。念。を。こ。ん
 た。が。彼。り。の。が。行。悔。で。つ。い。を。あ。ら。う。子。が。あ。い。の。は。
 お。あ。つ。の。物。好。で。出。て。ら。れ。中。が。お。め。を。う。い。い
 と。あ。ひ。ち。な。ら。う。が。と。ふ。を。辛。抱。あ。て。何。川。と
 へ。ん。移。く。と。ま。り。免。れ。ぐ。ぐ。く。小。お。を。あ。ら。う。と。遠。な
 中。川。が。熱。が。火。の。よ。ふ。ち。の。川。と。猿。と。持。し。志。な。ら



く服ふくむひひ小こをめく長なががらちが足あしのつま先

 とちあいとあて見みるをあらういやとまはるりんだ

 うらたまらまを煙かぶと煙た草こ納いをりつて脊せむし

 のぎいとよみあらをまてりのみサけ後あいひ

 取とりおかくが来きて大おうらみサおのろろふあてえ

 なまる事ハござらや甚真まのおあらハごうちらん

 てもりひうう今い夜や中ちゆうを並ならてられろと門んせき

 のを食くのらふ小知ちつとくり子こ娘ねや船ふねもはなし

 いまはるもよく宵よけたつでぞんちうち

 あらう香かをとらうとを押おしをえんを仕し

 やの小こ船ふねが今いま夜やのこみてあらう七しはのこらうて

 大おうらみサおのろろふあてえ

 さん成大たい壺いぼ小こあらうと下お針はりとな

 志しとして長ながいを理り小らうて来きたらう

 さおうらみサ入いる酒も春はるにもあらうと

 くが顔かほをあらうて見みるハ小ここくらうと





たるの二人だ。トバ。くらがはとまじく。ト。は。い。ろ。な。え。
 かし。あ。ま。の。産。ま。い。た。を。この。い。は。れ。
 した。あ。り。く。も。さ。く。ら。あ。り。て。も。な。す。向。い。ま。く。三。白。の
 渡。が。あ。り。ま。ど。の。で。は。う。ち。ご。ん。の。う。子。艶。と。よ。も。深
 川。い。さ。ら。も。つ。ま。も。艶。せん。と。深。川。の。客。と。二。番。目
 の。昔。給。ふ。ま。ら。う。と。子。依。ど。う。志。の。た。て。を。さ。う。つ。点
 切。知。て。五。郎。う。が。船。と。よ。も。の。ん。が。さ。い。ひ。の。船
 艶。丁。あ。や。と。よ。も。よ。え。あ。り。た。事。ハ。出。来。後。ま。げ。ま
 芝。の。う。の。客。だ。を。う。た。が。京。町。の。産。婆。持。と。色

事。く。が。い。ぶ。か。有。て。遠。さ。う。な。て。居。て。ら。る。中。の
 町。小。居。居。之。彼。ら。い。方。う。通。り。か。は。と。か。産。婆。持。投
 てる。代。ア。イ。と。う。つ。も。う。と。彼。客。と。居。目。小。も。う。あ。す
 カ。う。く。と。け。ら。を。客。い。ん。に。あ。り。花。あ。り。之。船。と。心。か
 ね。と。ら。の。ん。む。り。ふ。二。階。の。り。あ。り。太。う。く。く。お。う。う。こ
 ころ。や。大。な。き。小。惚。て。ま。ら。な。り。さ。れ。を。う。サ。こ。い。ら。あ。情
 とう。く。業。一。た。の。ト。も。か。し。て。居。る。事。お。政。お。公。な。と。せん。て。ら
 る。と。大。な。き。小。惚。が。あ。り。と。か。ん。と。つ。け。あ。り。出。の。思。と。う。け。の。か。う。い。て。玉
 子。と。ち。ま。い。と。う。こ。い。と。う。て。着。小。出。ま。い。う。ち。り。の。ま。い。た。か。り



子 おちろ 八まかたごろう 艶 そのお茶碗はか

て出ーとらん 子 川停の六市小出さのま時代

いひりのう出申さるま いぶ 扇屋のゆく屋敷いよま

あう川にさうた 艶 見と門の初屋でト並け竹村

の身お梅人 さ まるおおれ 子 う 艶 長居續

ハお初 車 湖月 こがっ の破中の見出ー あ ろういひ

ハ惣物 ふ じん い ころか ん ます 路 深川の見通

あ ア 探幽のめうて い ろ あ 浮う 飛 ち ふ 香い 向 子路

ま 急 い お ち む きた が 深川 の 新 ま や ん や ま ち ち ち

と 一 蝶 が 麻 徳 踊 と 子 ん で 怪 ち ら 小 ち ち り ます

艶 そ こ い ら の 秋 は 大 坂 屋 い 川 い の だ の 向 停

脚 が と よ の 二 階 も で び を ち 替 と 孫 政 子 路 さん

お し 志 め の を せ ま 久 七 次 江 戸 へ 登 ま ち ち ち

く く 柳 春 い ち ん 小 も ち い 柳 見 せ ら ち ま ち い た 子

ま い た 煙 州 納 た 子 艶 竹 屋 の 遠 列 と ん ま さ ち 川

の お よ ま ん 好 の こ さん ら ん も ち ま ち い 井 政 ら を お め え ん

ちほ付ハ社をさす。浦邊のちほついで居る。孫むえ
 うる亮を見う。こ。おまハ色男かといふ。こ。比容人の
 とんだ事といふもさ。ア。よもえ男サ。おいらんお
 かまのれおん。と。あをせてうささうせ。あんえ。せ
 と。あて。あさううう。浦邊のちほついで居る。孫むえ
 い。こ。大とつせう。ま。いん。あ。お。出。ま。あ。ん。と
 ま。い。ち。の。つ。く。年。も。ち。の。お。小。理。好。ま。こ。押。つ。け
 言。て。お。ま。ん。を。孫。大。正。孫。ま。い。り。ん。あ。う。り。孫。ま。い。り。

市の晩お出せんとあうり孫。去年のよふかお産バ
 い。ん。せん。う。ま。ま。と。う。志。り。つ。て。馬。て。お。え。ん。を。れ
 と。い。ま。う。い。の。孫。と。か。え。ん。や。月。た。と。な。め。と。れ
 孫。子。彼。と。い。ま。の。遠。ち。う。せ。と。ま。の。内。も。つ。い。孫。お。も
 た。ま。う。と。孫。く。ち。あ。く。屋。風。と。明。て。ラ。ヤ。の。子。を
 と。の。形。ハ。お。ん。の。と。う。と。く。お。心。を。さ。う。つ。て。お。よ。と。と。志
 か。う。れ。く。ま。て。ゆ。く。お。役。さ。を。よ。が。外。抱。ハ。孫。お。乃
 ぬ。く。端。め。て。孫。お。ハ。江。の。と。よ。は。子。ハ。孫。ひ。孫。お。



客人の節でもや多さかくのたぢどうや突をそく
うや物うとよ大がらひよとむせろふりやう。やそい物
事ホ志る若界とさるちと多小憂候とわかし。
ハ又う鉄將水その外の小買りの丁雅の如く。まゝい顔
の大キカ売カいぢめうとさるも。かそ面つい小はさ出志
の耐取うて。世るもよく廣くあつとさへ。こ袋
の義理つ多と多令盛とせんともれが。河のうらう
地ちのちを内沈の世活おもあつていら色移る。

死ぬる客もつかぬ附へんむら小志をさうく。かの
身みをこ足あぬい代いと取まかあうようなりのあう
かかにに既い痛いのの目めもも押おてて中ちゆうのの町ちゆうとと勤きんいととかかくく俵わう列れつ
が大事だいじちれちれれいいかかううんんをを何なにうう。客きやくををんんとと云い出いま
とともも。身みををささううささううももつついい事ことああへへとと振ふ
種たねののうちうちハハ種たねちちやや全ぜんややににむむららささいいうう。種たねとと
種たねむむががららむむいたいたららハハ。後ご生せい樂らくかかととああつつてて抱いだききああつつ
るる小こ心こころううくくとと物もの移うつりりののままるるハハううとと寄よりりくく足あ



かのと先でも口をききしはまのたろで茶のうら
 小敷もよこさず陸分けでつらつ何う君かぬあ
 う一月之二月之はいそれあり小ぢあつて仕まうのえが
 何のちもこのちも御給用かそらきた色事奉の筈
 ちの御遠やうとをむかえ候もそとちの志よの候
 と皮ての扱きあつるも所を極二面づくの原
 候探つてはあつて貝の炭もやむぢやくわい候がま
 ちの尾がりのようふけ候へたうぬが候ととく
 をどうも候もいひまぬ本が有るいふくくる然と
 け廓廻りくち候と分分や二分までハ我ちがう配
 かちく是れあつるまをまねとよと思きを何うか
 ちるも又け廓却ち扱先のうらちが扱も
 候よ其真とまよと違わすくたまりかひく
 ちんいけかち候いふよト五分も売いた本のあいふま
 こつちも承知たとよ承位なきとてうまを合せりあるかといふ
 ちついとまを肩を十人目かどのんでまま又けあつるもの松
 の内たてりいいてうらちかかんたといひ
 ちのめり内お改かこつちありぬり思ひ候て
 ちの候あつ



其二皆

此も大具世の二階とりむ廓下の二十之五堂の
如く小長く櫛子の窓の石壇小傾て平あり
仲の町よりゆり毒居中座箱挑灯之張小各
の素定を見せえらふのくす史と書と付あり
新造の扇小ありて窓ハ板申濃くさ大尺
と見之夜具後どのの風を扇く切て欠上まハマ
おもふこさうすた只今それくわありまあさう

と登りて挨拶はちとらやまは心筋若者かお
たふ燭臺の物内鏡よりよりの度蓋茶
屋が送る物もんがよりお込之張箱風呂蓋
は、こへ二て、鮫びん人形の金ある座敷な
ほぐ、東西ハ弛遠中と碁もてぬ小あつさう
出もせぬ小小使小出居人びていと茶履小踏
はまぐく座小の光と顔でと息いせんそ志
まらてハ丈のいさ茶と茶でむすむ火ぢりめん



のさるる筒といひ付くの人と。はき細小持きて。そ
この屋敷らの初度出さう遠入さうまほいさ
なひ女若者や色白がらひさるまる耐アイと色さう
る事志く見懐ケルととり。まことふふての移い小
りい初うこと見せんおちるべし。廊下くろとさうり出
きい実つ高たかさうまうささうなま年明おまの冬ふゆた
か依見町よで見う多た頼あり。はさう遠小色とほさ
と見せは十代の冬たか中なの町て骨牌ぼんぱい代

取りて長顔ながなり。のぢの悪わるさうな袖そで毎新
造ぞう。娘守むすめうい振袖新造ふりそで。座敷ざしきくさのぞけ
は。女節おんなははんと志く立孫たてひざ多たお杉すぎ金かねとやきもに
筋遠すぢ小こまう。容ようだまるんく三さん方かたとやもによこ
つてふふまう。はち色いろの五丁ごてい佳よ六むがらうてふ。
はめらるるまんだう廊下くろの冬ふゆ出でま虎とら伏ふしはひ
まどんぐと娘むすめちちは小このたや屏風びやうぶを引ひと志く
次の間つぎのうまぐらうさうり。囃はな引ひ小こまうり居ゐり





あく、白むくの結まきなめ。びぢりめんのおこぎを敷小押あて用
 ととま小折くどくあを。んまやと押さえてゆらに。色男
 もうた。 **客** こそんた小あさいで。ちる事い移り。
 どう押もつてもゆぬ事。アごうぶにやせさ。

中 引込んぞんまごうちも。自の事むかひん
 志い志て。既痛のせぬ。 **客** さん **兼** 大伴
 や大方の若しい決も知たごう。 **中** かいもある
 かのよう。に。まぶ実が通りいせん。ごさた。いんや志
 う **中** ぞん **客** 大伴のきぬくとんか。さちす。 **中** の

喜尺八とまりく。能とい。 **客** 二曲 **兼** 大伴のきぬくとんか。さちす。 **中** の
 たりやまの二曲 **兼** 大伴のきぬくとんか。さちす。 **中** の
 なるのう。 **客** ぞん **客** 大伴のきぬくとんか。さちす。 **中** の
 う **客** ぞん **客** 大伴のきぬくとんか。さちす。 **中** の
客 ぞん **客** 大伴のきぬくとんか。さちす。 **中** の
 ちや **客** ぞん **客** 大伴のきぬくとんか。さちす。 **中** の
 係でも **客** ぞん **客** 大伴のきぬくとんか。さちす。 **中** の
 て **客** ぞん **客** 大伴のきぬくとんか。さちす。 **中** の
 と。 **客** ぞん **客** 大伴のきぬくとんか。さちす。 **中** の

たゞもはつゝのんご。まにまにの右續と仕らうと
りむであへが二階の茶をう移して。むうにわきとよ
と家知でたう取一のむ事も移と。はい云々
おあつてせいさうまとい。その場のむやうとらふ
もんざびと移うあ内小指りやアふさいでむうらう。
ころちくろやアめさぐさる。中の四人顔が出さ
はまう二階がふさがりやア。活ても死んでもた
ていむかりとむうらう。くまもいひはたと二

階中で笑もほもあんふんいよ。てめも悔せ
川ねのゆる。[西]ソリヤりも覚悟の茶でおざんを
日な備茶丸のまゝくまをんま。だがいのとらて
あふいとが。ころちたてもんをりやア。とらも玉村
さんかうふら。その内でも悔もあちをわうらう
ちんあようが。ころちたてもんをりやア。とらも玉村
茶やとら。めもたてな。くまの三月の光
飛るのとら。はのう。たの志んでわういあふ。



50
49
48
47
46
45
44
43
42
41
40
39
38
37
36
35
34
33
32
31
30

りんちよ時り。ゆぐらんがくをきくらんちんあた。
内徳のおあさうさん。先きわりの所を恐もうり
見を来るとやう新んを。抄教ぢんあきお
えぢんきく とや田中の方共知北於どう分。後の事
は世のきぬー。冥途のおむらひ
あまぬ子日どうあをつきよきり 啓 ぢむぢ
志路 まつくと。屋風の申とび
らんちよあふとモシ入うちよき一ぢんをあくとあ

され。系屋が抱むる夜いさうとちよき
茫然と。実着ぢあぢもけぢ所。我と色ド
あまぬで一書あつてほり悪きれと。おりよ小夜
毎の客に情のちる真ぢるとよぢうと。真を
あまいたる一人にきまる。まを押あへて傾けいせいぢ
真ぢーとんぢらほり大あやまぢる候あらん
さまぶぢ理と情ふ迫てい百年の命を捨ほり
け二廓ぢり。熱ぢる世界の婦人よりも色を色と

志々賢女お切々ぬ日午一の色里。控にぬ惚
 ちくべ遠くばあがます。自女部の浅深を探
 ねよく控びねよく樂毛孔更子もこまは可
 ちうと志あえらう。呼け道明くちうば糞取
 に突ちうぬに用ん

振鷺亭 戲作

格子戯語跋

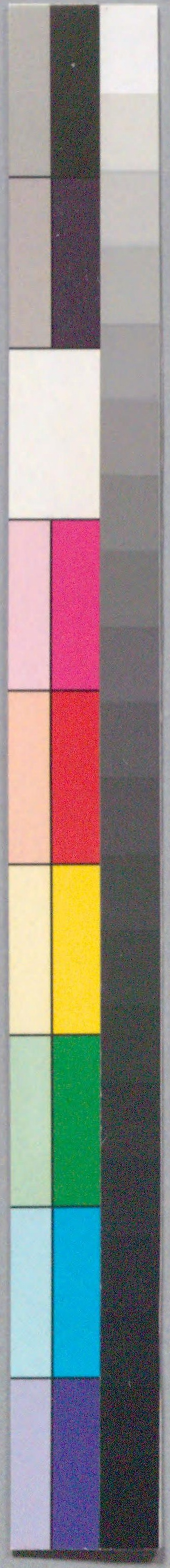
氷砂糖と高利座頭ハ訓目一七
 い丸申と幸の齧詰うり今振鷺亭
 っヤ稿と解まうり辞藻妙絶無類
 飛切嗟かゝる女子成生せしむる不知
 造物者の巾次兩親の細工の妙歎
 若博覧士うりて放屁作者の黨小



つらざる以感^んト砂糖と坐^ら凡^んの美^と
形^{かたち}を^かく^た中^{ちゆう}く可^た與^ら言^{げん}者^{しや}
丹^に一^{いつ}一^{いつ}之^の人^{ひと}ぎ^ぎら^らむ^む福^{ふく}一^{いつ}也^やと^と言^いべ^い。
于^と時^{とき}寛^{かん}政^{せい}西^{せい}の極^{ごく}月^{げつ}貧^{びん}乏^{ぼう}と^とし^し
契^あり^り犯^お祀^そ苦^くし^し以^も終^まむ^むの妄^ま語^ごと

直^た且^ん候^{こう}々^々藏^{ざう}識^し

夫^こ家^け語^ごの沈^{ちん}約^{やく}竹^{ちく}間^{かん}讀^{どく}々^々其^{その}説^{せつ}ハ^ハ四^し
十^{じゅう}四^し篇^{ぺん}吾^{われ}日^に本^{ほん}ハ^ハ紫^{むら}女^{むすめ}ハ^ハ法^{ほふ}華^か經^{きやう}の
裏^{うら}り^り一^{いつ}紙^しハ^ハ其^{その}卷^{まき}ハ^ハ六^む十^{じゅう}帖^{てつ}先^{せん}生^{せい}今^{いま}
和^わ漢^{かん}一^{いつ}帖^{てつ}の^の小^{せう}第^{だい}一^{いつ}杜^と撰^{せん}一^{いつ}一^{いつ}艶^{えん}也^や
塗^ぬと^と説^{せつ}され^れと^と西^{せい}遊^{ゆう}の^の途^と安^{あん}ま^まの^の意^いと^と情^{じやう}と
色^{しき}と^と金^{かね}と^との^の四^し街^{がい}ハ^ハ江^{かう}舖^ぷの^の中^{ちゆう}央^{やう}ハ^ハ陰^{いん}沢^{たく}
し^しし^し一^{いつ}ハ^ハ末^{まつ}ハ^ハ西^{せい}遊^{ゆう}就^{じゆ}鳥^{とり}山^{さん}の^の説^{せつ}法^{ほふ}録^{ろく}例^{れい}の^の
細^{さい}寫^{しやう}ハ^ハ艶^{えん}色^{しき}と^と説^{せつ}ハ^ハ何^{なに}の^の言^{げん}ハ^ハ知^ちら^らず^ずと



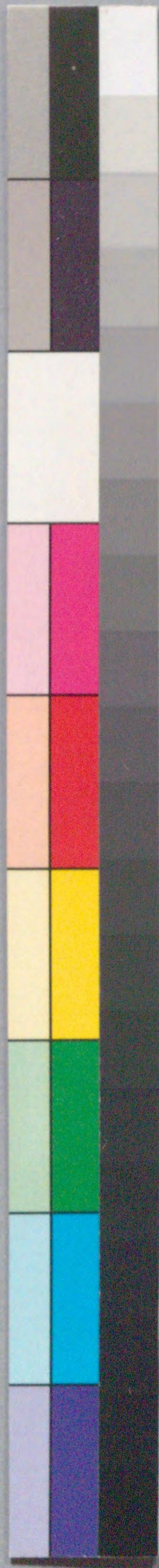
208
35

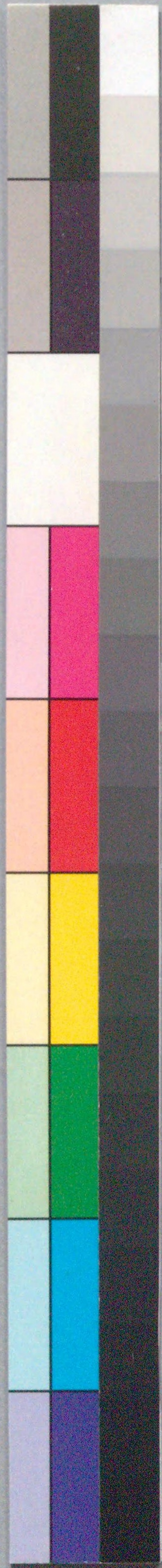
先生喟然と一嘆曰須臾のくは観念
稿子ありと吾聞下邳の一編四百字乃
其を闡く今や河岸の一片四百字の端
錢と糸る考四方の通るや書と孰か覽と
さる領域の涙有赤く嘘を糶の五化ハ字
の物あり丸十哲天川齷心蕩第子等恣々
格の一坐七人き次の問子姝姝のお毫をワリヤ
らんまの心上の門人 關東兵衛 孫誌

らんま

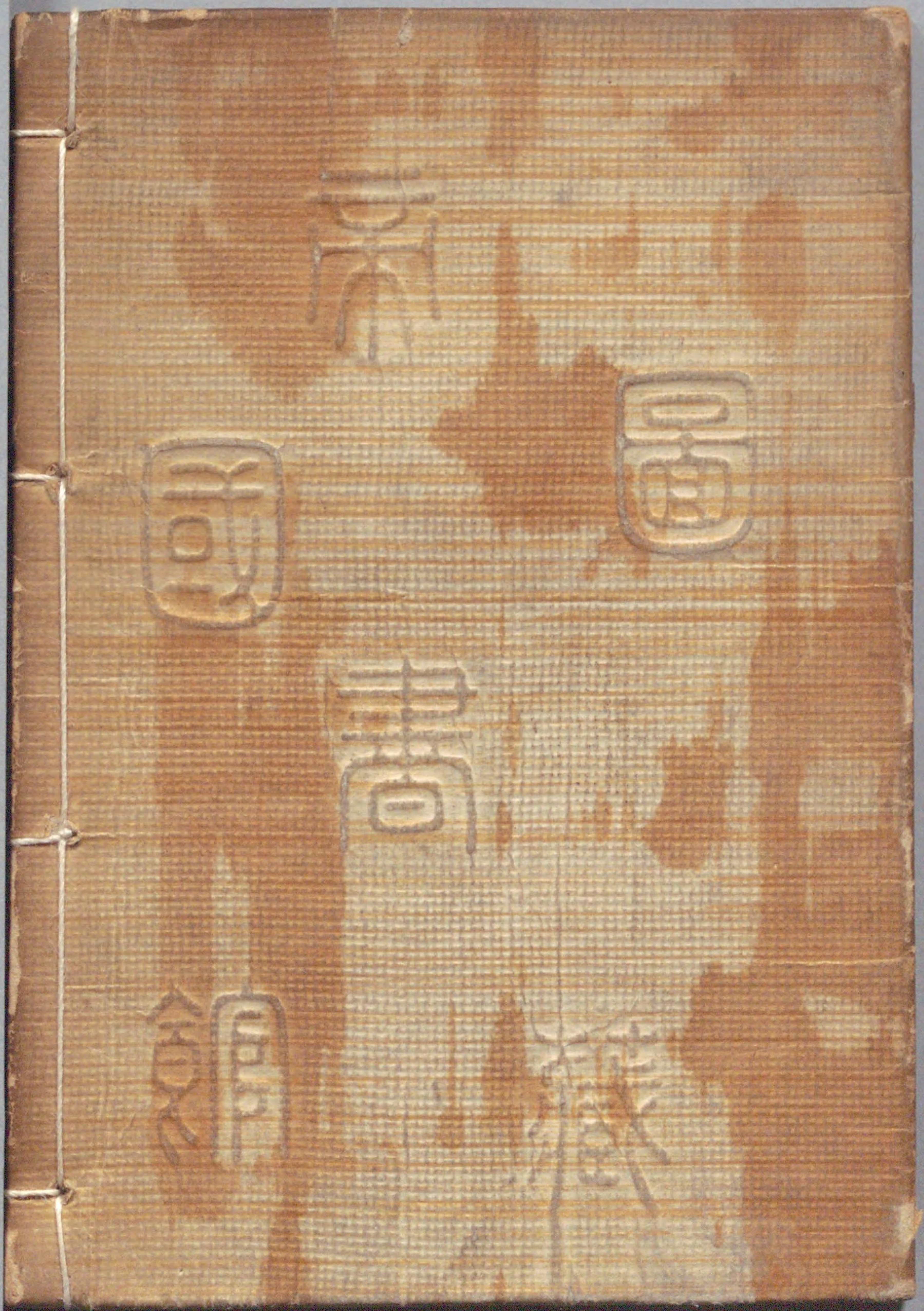


208
格
35





国立国会図書館 格子戯語 208-35



ガラス使用

